③小中一貫校施設の整備

■ 9年間をどうデザインできるか

1. 児童生徒の多様な学習の場、生活の場として

1） 9年間を見通し、 成長の流れに応じた環境整備

小学低学年から大人に近づく中学３年までの教育・生活環境を、 小中教員が創意工夫できる素地として、

使い込める、
柔軟性のある全体構成

①普通教室・管理棟の緩やかなつながり
②共用しやすい特別教室棟・屋内運動場棟
③放課後の居場所づくり、 地域開放のしやすさを踏まえたゾーニング（学校の負担にならない管理のしやすさ）

＜図 3-1.＞校舎の構成

2） 学年段階の区切りに応じたゾーニングや教室環境

２教室１組のクラスター型 ×７組によるゾーニング。

①小学校低学年②中学年③高学年④特別支援教室（小）＋⑤緩衝帯にもなる英語・中学校１年⑥２～３年⑦特別支援教室（中）。成長に応じた明快な区切りを持たせ、 **個々に専用空間もある独立性**と、**回遊かつ迂回もできる緩やかなつながり**とを両立。 落ち着ける教育環境

■「学び･ふれあいの空間」を豊かにつくる

1. 年齢の異なる児童生徒が日常的に交流できる各室・空間や動線

1）「中心空間」のある学校づくり

①２つの中庭：全校集会もできる。 日常は休み時間のふれあいの場
②メディアセンター（図書室・ＰＣ室）, ランチルーム：行き帰りに立ち寄りやすい位置。 廊下との仕切りを開放でき、 ひとりでの学習 ＋ 友達と、 さらには学年を越えた児童生徒同士がふれあえる空間

2）「回遊性のある」「ふれあえる」動線空間

単なる廊下ではなく、 アルコーブや教科メディアスペース（MS）として、**児童生徒たちの日常の成果を「発表する場」や「交流の場」**とします。

2. 児童生徒の発達段階、利用内容に応じた施設環境

①普通教室のつながり：１階は低学年（低学年の庭にも近い）、 ２階は小学校高学年・中学生用とし、 明快に区分けしつつ、 つなげる
②特別教室：異学年の発表も見れる、 ゆとりある展示・発表スペース

3. 小・中学校の教職員が連携できる施設計画

印刷・教材作成室を含め、「執務」「個人作業」「協働作業」に対応するフレキシブルでクリエイティブな職員室。 子どもたちが気軽に立ち寄れる相談・教職員交流コーナーなど多様なスペースを提案

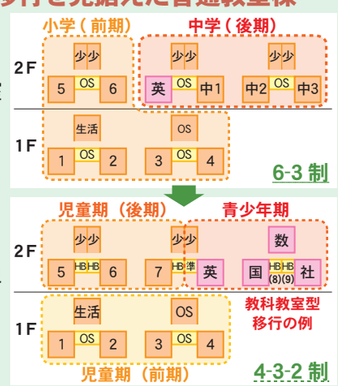
■ ４－３－２制等への移行を見据えた普通教室棟

1） 簡単に移行できる構成

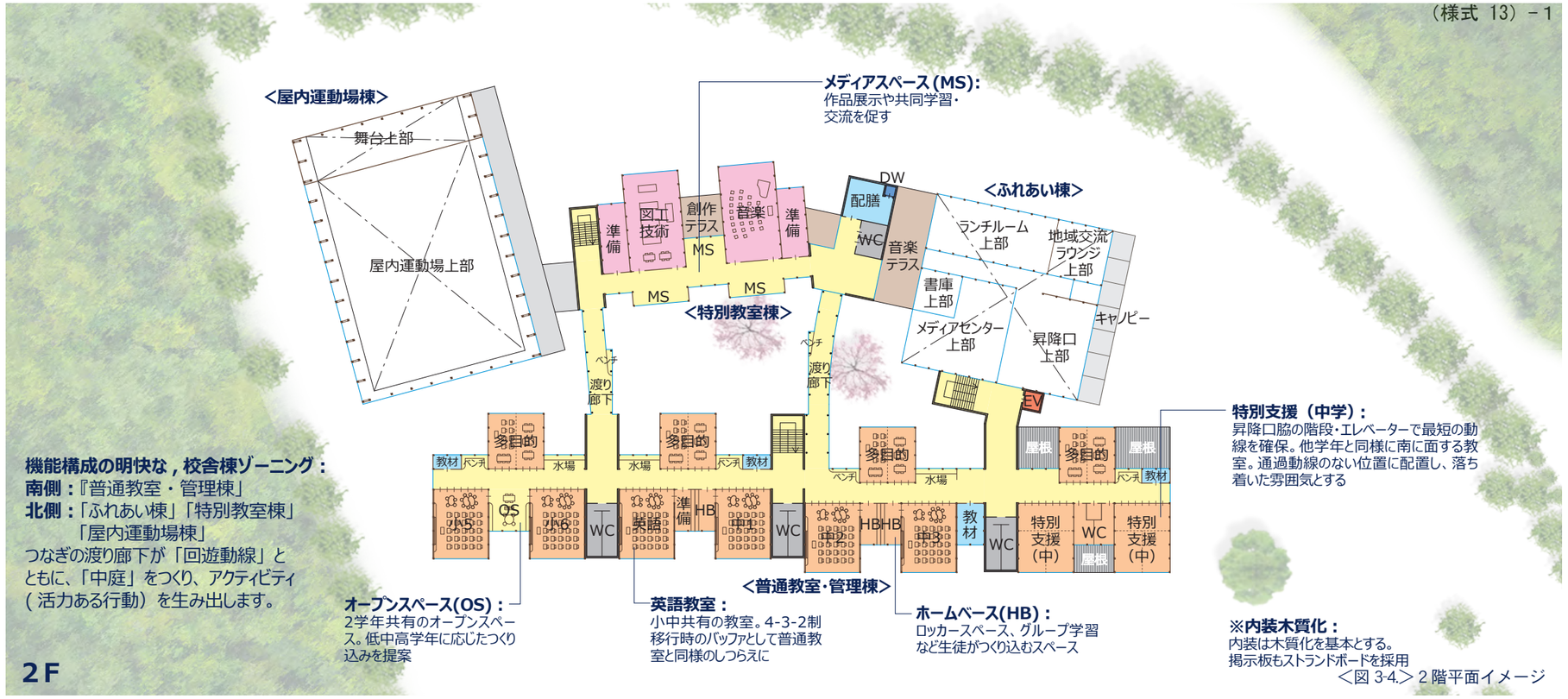
１階はもともと（４年）まで。２階の英語教室を普通教室と同じつくりにしておけば（中１）と入れ替えるだけで、**4-3-2 制に移行**できます。

2） 教科教室型への移行

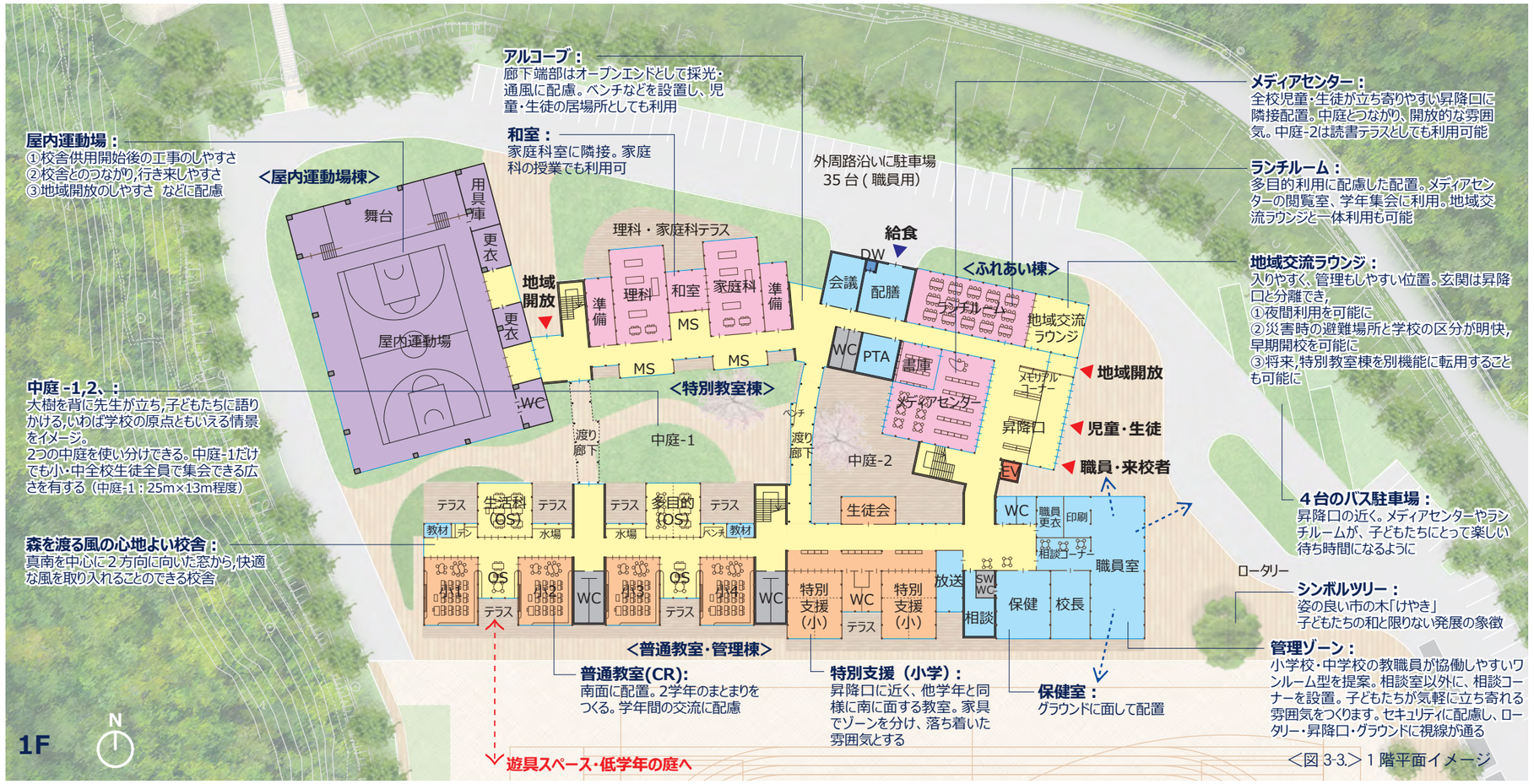
２教室１組のクラスター型には、 **多目的教室が併設**されているので、 **教科教室型への移行**も可能。 ５～７年生への教科担任制導入も教室群の組み合わせで容易



＜図 3-2.＞4-3-2 制への移行



＜図 3-4.＞２階平面イメージ



＜図 3-3.＞１階平面イメージ